

いくつになってもチャレンジ

西野 健三 (22期 1979年卒)

イギリスに孫ができたことがきっかけで、日本語教育に興味を持つようになりました。「日本語はどういう風に教えるのだろうか?」とふと思いました。ただ、それだけです。今まで40年以上薬剤師畑を歩んできた理系脳の人間でしたが、日本語教師の勉強をすることにしました。60代のちょっとした挑戦でした。

2023年に420時間の日本語教師養成講座を受けました。日本語教育の歴史、教育方針、文法、語彙、発音、文字、日本の文化・生活習慣・教育事情、教え方の方法、授業計画、模擬授業などをonlineと通学で学びました。ちょっと気が遠くなりそうな量でした。模擬授業は留学生を対象に、他の学生も見ている中で行うため、とても緊張しました。指導教師の助言がなければ、どういできない授業でした。先生には感謝しております。

420時間は1週間10時間学んで42週という時間です。薬剤師のパートをしながら約1年間で終えました。久しぶりに勉強した1年間でした。日本語学校で働くには、この420時間修了することが採用条件の一つなのです。

他にも「日本語教育能力検定試験」というのもあり、その取得は日本語教師の採用条件の一つなので、腕試しと思いつつ2024年度の「日本語教育能力検定試験」を受けましたが、惨敗でした。

しかし、その勉強の成果が2024年に初めて国家資格化された「日本語教員」の試験に生かされました。「日本語教員」の国家試験を受験し、合格してしまいました。僕にとっては、まさに奇跡のような出来事でもビックリしました。初回だったので緩めだったのかもしれませんが、合格率は62%くらいでした。

「登録日本語教員」の国家資格は留学生を受け入れる大学などの認定日本語教育機関で教えるために必要な資格とされています。認定されていない機関ではその登録教員資格がなくても日本語教育が可能です。日本語のボランティアも少しの間やりました。

2025年5月からタイに数か月滞在し、タイの中高生の日本語教育に少し関わりました。はじめての海外生活は大変なこともありましたが、楽しいこともたくさんありました。今はスマホやネット情報があるので、僕のような英語や、タイ語ができなくても何とかなるものです。それでも滞在中、オンラインでタイ語

を学んでいました。

朝は5時位から33度ちかくになり、夜も27度くらいなので、朝晩にシャワーを浴びていました。暑さで脱水にならないよう、いつも水を携帯し飲んでいました。タイでは水道水は基本的に飲めないという事でしたが、湯冷ましなら大丈夫でした。スーパーにはミネラルウォーターが大量に売られていましたが、水を買うことはほとんどなかったです。

水や食べ物の辛さに気を付ければ、おなかも壊さずおいしく食事もできます。外食文化なので屋台でも食べますが、毎日の食事は近くの市場で食材を買って、家で食べていました。丈夫な体を与えてくれた親に感謝しています。滞在中得たものは、横断歩道もない片側4車線道路も横断できるようになったことでしょうか。バンコク発の日帰り旅行も楽しみました。

日本語クラスの生徒たちの中には、日本のアニメや音楽など興味があって日本語を学んでいる子もいます。コスプレイベントなどにも参加してインスタなどで楽しんでいます。タイではテレビで古いドラえもんやハットリくんなどがタイ語で放映されていました。生徒はNetflixでアニメを楽しんでいます。ドラえもん、コナン、鬼滅の刃、進撃の巨人などをよく知っていました。「キティちゃん」や「すみっこぐらし」など日本のキャラクターグッズも幅をきかせていました。授業では日本文化の紹介も取り入れていて、生徒の学習への意欲につながっています。

タイでは高齢者や先生、僧侶などを敬みます。教室や職員室に入る時には生徒は靴を脱ぎます。先生は靴を履いたままです。雨の日でも同様です。習慣とはいえ、なんともいえない感情になる時があります。制服は男子がワイシ



シャツと短パン、女子がブラウスとスカートです。全校生徒の朝礼では、生徒は女子もあぐらをかいて床に座り、先生の話を受けます。

女子の鞆にはキャラクターグッズがぶら下がり、携帯の扇風機を持ち歩いています。室内はクーラーが効いていて寒いくらいです。そんな時、生徒たちは長袖のトレーナーを着ます。暑いのに店に並んでいるトレーナーは売れるんだろうかと、不思議に思っていました、「室内が寒いので必要なんだ」と納得しました。僕は暑がりなので半袖で十分でした。



帰国後、日本で日本語教師の就職活動をしました。いろいろ応募しましたがしばらくは採用されませんでした。おそらく、教師経験がないことや年齢が影響していたのではないかと思います。ようやく採用してくれる所が見つかり、10月から地元を離れ、日本語教師として常勤で働いています。今更常勤と思われるかもしれませんが、教師の基本的なことも知りたかったので、常勤にしました。生活していくには十分ですが、国家資格と言っても本当に安い収入というのが実態です。

新しい土地での新しい生活は何もかもが新鮮で、とにかく毎日が発見で楽しいです。食事は自炊。お昼は卵サンドと手作りのガトーショコラを持っています。休日は掃除、洗濯、買い物、そして毎週昼食用のケーキ作りです。教師生活は初めてのことばかりでちょっと大変です。すぐ担任も任せられました。担任業務も時間がかかりますが、力を借りながら楽しくやっています。やりたいことをさせてくれている家族に感謝しています。

この世界をちょっと垣間見ての感想です。世間では賛否はいろいろありますが、国は地域の受け入れ態勢が不十分であっても、海外労働者の受け入れを急速に強めています。しかし、現状は日本語がわからないことで、地域になじめない大人の外国人がいたり、日本語が分からず勉強についていけない外国の子供達もたくさんいたりします。そういう場合、日本語教育のほとんどは地域のボランティアが支えています。札幌の状況も同様です。札幌の小中学校については教育委員会がやっと重い腰を上げましたが、まだまだ十分とは言えません。主導権がボランティア団体から教育委員会に移っただけの状態、ボランティアが支えている現状は変わってはいません。ボランティアも日本語教師も不足しています。国家資格でありながらも給料が安いというのも一因にあります。たぶん、今の外国人に対する混乱も庶民の収入が上がらないのも政治の何かが間違っているということなのかもしれません。

同窓会 HP:2026年3月10日公開